

# 産学連携実績紹介フォーム

## 1. 講座の計画から実施までの情報

教育機関名 (学校名・学部学科等)	文教大学 情報学部 情報システム学科および経営情報学科	実施 時期	2014 年度 前期 後期
対象学年・学期・人数	2013 年度は、3,4 年生 情報システム学科 45 名、経営情報学科 76 名が受講した		
講座名	情報システム学科: システム開発事例研究、経営情報学科: 経営情報特論 B		
連携企業・団体	一般社団法人 神奈川県情報サービス産業協会		
支援・連携の類型	連携団体の作成テキストとハンドブックにより講座を実施(講師派遣型)		
講座の概要・特徴	<p>SEの仕事について講師の経験を踏まえて解説し、理系・文系さらには男女を問わず、IT業界を進路選択の一つとして視野に捉えて考察する場を提供する。</p> <p>講義は、協会で編纂した手引き書(SEハンドブック)を元に、担当講師が独自に作成した教材を使った授業でSEの仕事に理解を深め、さらに講師自身の経験に基づく業界の話を受講生に紹介することで、業界の現状を正しく伝える。</p>		
産学連携検討の背景	<p>情報サービス産業に人材を送り出すにあたり、情報システム開発全般のプロセスを実務経験に基づく実践的な視点から学生に学ばせる必要があるが、大学単独では難しい状況があった。また、就職後のミスマッチを防ぐ観点から、情報サービス産業で働く現実の姿を学生に正しく伝える必要があった。</p>		
連携の狙い、目的・目標	<p>特にシステムエンジニアの仕事の実際について、情報システム開発全般のプロセスを俯瞰した形で学生が理解を深めること、および、情報サービス産業の実態を正しく理解することにより、学生が職業選択を正しく行えるようにすることを目的としている。</p> <p>プロジェクトの実践経験に基づく講義は大学単独では難しいため、連携先には、最新の生きたプロジェクトをベースにした講義を期待している。</p>		
連携にあたっての課題・懸念	<p>開講している2学科ともに定員は150名であるが、システム学科ではその中の比較的少数しか受講していない点が課題と言える。それに対して経営情報学科では今年度76名と半分程度の学生が受講したところが今年度の特徴である。今後、情報システム学科の学生には、半数を超える学生に受講させたい。</p> <p>連携にあたり、学内における否定的な意見はない。積極的に推進することで、学内は一致している。</p>		

講座の位置づけ 既存講座との関係	現在は、情報システム学科および経営情報学科共に、学部 3 年生の専門選択科目として開講している。特に他の講座との関係は付けず、特論という形で開講している。
履修前提条件	特に設けていない。
授業準備と実施の 体制	基本的に連携先の講師が中心となり、講義を運営している。大学側は、教員 1 名が対応窓口となり、日程調整、シラバスの作成、試験問題作成、単位認定を行っている。
成績評価の方法	授業毎のアンケートに加え、レポートを課している。 「SE に必要な知識を挙げることができる」、「SE の業務について説明できる」ことを講義の到達目標とし、達成度に応じて、S, A, B, C, D の評価をしている。

講座の 構成 (シラバス)	単元と時間配分 (1コマ 90 分で実施)	演習・実習	実施担当・役割分担
	ガイダンス (90 分)	座学	文教大学 神情協講師
	SE とは	座学	神情協講師
	SE のマネジメントスキル	座学	神情協講師
	情報システムの企画と提案	座学	神情協講師
	システム設計の概要	座学	神情協講師
	システムテストと運用テストの意義	座学	神情協講師
	情報サービス産業界の現状	座学	神情協講師
	データベースの知識	座学	神情協講師
	ネットワークの知識	座学	神情協講師
	情報セキュリティと個人情報保護	座学	神情協講師
	プロジェクトマネジメント	座学	神情協講師
	SE のベーススキルと関連知識	座学	神情協講師
システム化事例紹介	座学	神情協講師	

	授業全般の総括とまとめ	座学	文教大学 神情協講師
	試験		文教大学

演習・実習の内容 必要なマシン環境 等	座学のためのため、該当なし。
---------------------------	----------------

## 2. 講座実施後の情報

受講者の声（受講目的、修得目標）	<p>受講学生の多くは、情報サービス産業への就職に関心があり、業界の実態、SE という仕事について具体的に知ることを目的としている。</p>
受講者の感想（本講座で得られたもの）	<p>受講者からは、下記の感想が多く聞かれた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際のプロジェクト関係者による具体的な事例に基づく講義により、情報サービス産業の実態、SE という仕事について理解が深まった。</li> <li>・情報サービス産業は3K と呼ばれることがあるが、実際はやりがいの多い仕事であり、また、就業管理もしっかりとした会社が多く、誤解であることがわかった。</li> <li>・女性も活躍できる業界であり、また、それをサポートする仕組みを整えている企業が多いことがわかった。</li> <li>・SE の仕事は、一人黙々と PC に向かって行うものであると想像していたが、実際は、チーム内はもとより、客先、関係会社とのコミュニケーションが重要な仕事であることがわかった。</li> <li>・オフショア開発をはじめとした、業界のグローバル化の状況が理解できた。</li> </ul> <p>なお、改善希望としては、より分かりやすい資料の提示、理解度に合わせた講義スピードなど、幾つかの点が上がっていた。</p>
先生の評価	<p>学生が情報サービス産業、および、SE の仕事に対して持っていたイメージが、講座の受講により実態に即した正しい理解に変化しており、連携の効果が出ていると考える。また、講師の所属する企業への関心から、企業研究の動機付けにもなっている。</p> <p>課題としては、次の点があげられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回異なる講師による講義のため、多くの方の話を聞ける反面、連続した内容の話とはならないこと、また、講師へのより深い質問が出にくい状況になっていると考える。大学としても、全体をまとめた形で学生に説明することに多少の工夫を要する点である。</li> <li>・業界の説明が毎回あるが、個別企業の状況に偏った内容もあり、伝え方の工夫が必要と考える。学生に実態を示すという観点からは、情報サービス産業で働くこと良い面だけでなく、厳しさ、業界の構造、将来性など、厳しい見方を示すことも必要と考える。</li> <li>・一口に情報サービス産業といっても、企業規模あるいは専門領域により業務内容は大きく異なるものと考えられる。それらの点が浮き彫りになるように、よりバラエティに富んだ企業の話を用意できることが望ましい。</li> </ul>

企業・団体による 評価	<ul style="list-style-type: none"><li>・情報サービス産業に対する間違ったイメージや偏見を是正し、業界の姿を正しく伝える、という目的はかなり実現してきていると思われる。</li><li>・本学では、情報学部のみが履修対象であるため、学生の知識レベルがほぼ同程度であり、授業の中の技術分野の講義は非常に やり易い。</li><li>・本学には「プロジェクト演習」が必修科目としてあり、本講座との連動を図ればさらに効果があがると思われる。</li><li>・各講師の「業界の話」に対しては非常に興味深く受講されていた。</li></ul>
----------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

今後の展望 (継続に向けた課題)	<p>SE 講座については、今後も継続をしていきたいと考えている。</p> <p>また、文教大学情報システム学科では、プロジェクト演習を学科カリキュラムの中心に置いている。プロジェクト演習では、学生が主体となり、システム開発プロセスの全般を行うことになるが、そのテーマを産学連携で行うことを考えている。SE 講座が、その連携の一端になるように工夫をしたいと考えている。</p>
---------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 3. 支援企業・団体からの情報(神情協記入事項)

提供教材・コンテンツ情報	講座名称:大学向けSE講座 講義形式:SE講座講師が独自に作成した教材を元にPPTで講義を行う。		
提供元	神奈川県情報サービス産業協会 (会員企業の認定講師)	費用	①講座費用(別途調整) ②テキスト有償(SEハンドブック)
支援の目的・目標	SEの業務について講師の経験を踏まえて解説し、仕事内容に理解を深め、さらに講師自身の経験に基づく業界の話により、業界の現状と業界が求める人物像を受講生に伝える。 理系・文系さらには男女を問わず、IT業界を進路選択の一つとして考察いただき、受講生の多くがIT業界に進路を選択をする事を目標とする。		
具体的な支援内容または提供教材の内容	講義は、協会で編纂した手引き書(SEハンドブック)を元に、担当講師が独自に作成した教材を使用し講義を行う。 注記:SEハンドブックの詳細は別紙添付。		
講座実施における企業・団体の役割	下記の14回の講座を団体が提供し、各回の講師は会員企業より認定されたSE講座講師が実施する。 講義:01(ガイダンス) 講義:02(SEとは) 講義:03(SEのマネジメントスキル) 講義:04(情報システムの企画と提案) 講義:05(システム設計の概要) 講義:06(システムテストと運用テストの意義) 講義:07(情報サービス産業界の現状) 講義:08(データベースの知識) 講義:09(ネットワークの知識) 講義:10(情報セキュリティと個人情報保護) 講義:11(プロジェクトマネジメント) 講義:12(SEのベーススキルと関連知識) 講義:13(特別講義、システム化事例紹介) 講義:14(授業全般の総括とまとめ)		
企業・団体からの推薦コメント	神情協会員企業の中からSE講座講師審査会で資格認定された講師が各回の講義を行う。 講義は、毎回違う講師(企業)がご自身の経験や実績を踏まえて講義を行うため13名(複数企業)の講師の講義を受ける事となる。 講師企業には、メーカー系、ユーザー系、独立系等の企業があり、企業規模も大企業から、中小企業さらにはベンチャー企業まで幅広い講師(企業)が担当することとなり、受講生にIT業界の多くの可能性を紹介する。 この授業には利用者側の教員も参加頂き、教育に積極的に関与して頂く。		